

まちの話題

あなたの声や地域、職場での話題を
お寄せください。
☆役場総務企画課まで（電話72・0331）



販売活動が大きな経験に

販売を通して交流

日野高シヨップ開店

日野高等学校（根雨）の生徒が育てた野菜・草花や加工品などを販売する日野高シヨップが、5月10日、出雲街道根雨宿一番館（根雨）に開店しました。

今回販売されたのは、手づくり豆腐、トマトケチャップや、ペゴニア、マリーゴールドなどの草花。開店の午前10時から約50人の町民が行列を作り、加工品は開店後すぐに売り切れるなど大盛況でした。

この日野高シヨップは、12月までの毎月第2土曜日、出雲街道根雨宿一番館で開かれます。

田植えで都市との交流

里山元気塾田植え体験

5月11日、里山元気塾（小谷博徳塾長）主催の田植え体験が、上菅地内の水田で行われ、町内をはじめ県内各地から約30人が参加しました。

これは、同塾が都市と地域の交流事業として毎年行っているもので、当日は、10人の水田に参加者が横一列に並び、コシヒカリの苗を一つずつ手で植えていきました。田植えのあとは、地元産の食材を使った食事会で参加者どうし交流しました。

参加した鳥取市の学生は、「田植えは2回目で、今回も楽しくできました。地域の人も温かく、いろんなことを教わりました」と話していました。



泥の感触を楽しみながら

地域活動に役立てて

ボランティア活動に助成金

日野ボランティアネットワーク（小谷博徳代表）の活動に対して、財団法人キリン福祉財団から助成金27万円が贈られ、5月14日、鳥取県西部地震展示交流センター（根雨）で贈呈式が行われました。

これは、同財団が行っている地域福祉活動支援事業にボランティアネットワークが応募し、今年度の助成が決まったものです。

贈呈式では、財団の国松秀樹事務局長が「この助成をきっかけに、さらに活動をステップアップさせてほしい」とあいさつし、目録が手渡されました。



助成を受けるネットワーク事務局の皆さん

アユ漁解禁に先駆けて

ひのっこ保育所アユ放流

5月20日、ひのっこ保育所の年長児26人による稚アユの放流が、黒坂カワコふれあい公園で行われました。

これは、6月からのアユ漁解禁を前に毎年行われ、自然や生き物とふれあうことで命の大切さを学んでもらおうと、町水産振興連合会（頭本尚憲会長）が主催しているものです。

頭本会長が「7月にはアユつかみも計画しています。今日は元気なアユをみんなで放流してください」とあいさつしたあと、園児らはバケツに入った稚アユを一齐に放流。「大きくなってね」などと声をかけたり、上流へ向かって泳ぐアユを目で追ったりしながら数万匹の稚アユを見送りました。



子どももアユも元気いっぱい

素朴な味わい、木の香り

木のおもちやづくり教室

木のおもちやを作ることで、木の温もりに触れてもらおうと、6月3日、根雨小学校で木のおもちやづくり出前教室が開かれ、根雨小学校6年生18人が参加しました。

今回は、世界で活躍する組み木デザイナーの小黒三郎さん(倉敷市)を講師に迎え、「動物の親子」の組み木バスルを作りました。

小黒さんが木のおもちやを作り始めたきっかけや、使う木の種類、作り方のポイントなどを説明したあと、子どもたちは自分で考えた図案を木の板に描き、糸のこを使って慎重にバスルにしていきました。町内の木のおもちやづくりボランティアも協力し、個性豊かな世界で一つだけの木のおもちやが完成しました。



糸のこの使い方をアドバイスする小黒さん(左)



成長を願いながら丁寧に植えました

秋の収穫楽しみに

セルプひのサツマイモ苗付け

障がい者の通所施設、セルプひの(根雨)の利用者ら12人が、6月7日、舟場地内の畑にサツマイモの苗を植えました。

この畑は、畑を管理している小田切博美さん(舟場)が提供したもので、今回は小田切さんも手伝いながら、250本の苗を全員で協力しながら1本ずつ植えていきました。

小田切さんは、「昨年からの畑を提供しています。利用者の皆さんにも喜んでもらえてうれしい」と話していました。

サツマイモの収穫は10月中旬ごろ。収穫したものは、焼きいもにして各種イベントで販売される予定です。

まちの芸術家の作品一堂に

町文化展

町内の美術愛好家による作品展、第5回町文化展(町文化団体連絡協議会主催)が、6月8日から10日までの3日間、山村開発センターで開かれました。

今回は、絵画や写真、陶芸、ちぎり絵、書道などの作品が多数展示されました。

会場には、町内をはじめ、町外からも多くの人が訪れ、力作ぞろいの作品を一点一点じっくりと眺めていました。

また、8日にはお茶のサービスも行われ、来場者に癒しのひとときを提供しました。



出来栄に感心しながら観賞

「リバーサイドひの」指定管理者が決定 7月から営業を再開

町交流センター「リバーサイドひの(下榎)」は、昨年10月から営業を休止していましたが、米子市の株式会社M・Aサービス(岡田文代表取締役)が新しい指定管理者(管理運営団体)に決まり、7月1日から営業を再開することになりました。

町では、昨年11月から今年4月にかけて指定管理者を公募していたところ、4団体からの応募があり、指定管理者選定委員会を経て指定管理者を決定しました。

予約・問合せ 【6月30日まで】(株)M・Aサービス(電話0859・29・0631)、【7月1日から】リバーサイドひの(電話・77・0333)

